

1. 巻頭言

センターレポート第17号によせて

総合情報処理センター長

黒田 英夫

kuroda@ec.nagasaki-u.ac.jp

本号のセンターレポートを手にとられて、「体裁が変わったな」とお気づきのことと思います。如何でしょうか。皆様に気に入っていただければと思っております。

近年のファイリング技術の進歩により、あらゆる分野で、各種資料や冊子のサイズの統一化がうたわれております。サイズとしては、ほとんどの分野でA4化が進められています。そこで、平成9年度広報部会センターレポート編集委員会でも、センターレポートのA4化の提案がなされ、今回の改訂の運びとなりました。

さて、サイズの次は表紙のデザインです。「センターレポートの表紙は緑色に黄色の線」という特徴を継続させるという考え方と、A4化を機に一新する考え方が出されました。これまでのセンターレポートの表紙も、とってもスッキリしていて、私は大変気に入っていました。しかし、既に16巻発行されており、そろそろ変えても良い頃ではあります。そこで、新たなデザインとすることとし、おもて表紙には、その号での特集の内容を示す見出しを付け、読者の注意を引き、少しでも多く読んでもらえるように工夫しました。また、裏表紙には目次を載せ、掲載項目を調査する時などに、ページをめくることなく調査できるようにしました。さらに、センターに要望等がある時の連絡に便利のように、裏表紙の裏のページにセンターの業務案内を掲載するようにしました。できるだけ多くのご愛読をお願い致します。

総合情報処理センターでは、平成9年度から、希望する全ての学生に対してIDを発行しております。全学における利用者数は、学生が2,596名、教職員が1,396名、教育利用が1,969名にまで達しており、今後ますます拡大していくものと思われます。来る21世紀の情報化社会においては、一人一人の人が、情報リテラシー技術を自由自在に利用できるようになっておくことが重要です。大前研一氏は、このことを、世界の情報を覗くための眼鏡を体の一部にしておくことが重要であると言っています。長崎大学の全ての学生および教職員が、情報リテラシー技術を自由自在に利用でき、世界の情報を覗くだけでなく、自ら情報発信を行い、そして世界の中の長崎大学となることを期待しております。このため、総合情報処理センターではできる限りのお手伝いをする所存であります。

しかしながら、総合情報処理センターでは今端末室の維持確保で問題を抱えております。これまで、一般情報処理演習を行うための端末室として、全学教育棟の207,208室を使わせて頂いておりました。さらに、全学教育の目玉の一つとして取り上げられている一般情報処理教育の充実のために、総合情報処理センターの増築がなされるまでの仮住まいとして、地域共同研究センターの一室を端末室として借用しております。しかし、これらの端末室も、環境科学部および工学部の改組のため明け渡しを要求されております。

上述したように、全学の学生および教職員が情報リテラシー技術を身につけるための設備を提供するためには、これらの端末室に代わるスペースは是非とも必要なものです。ネットワークや端末の異常時の迅速な対応のためにも、現在の総合情報処理センターの近くでの増築を切に希望する次第です。全学のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。